

福寿草 フクジュソウ fukujuuso

日本には自生している4種のフクジュソウがありますが、東城町久代の為重地域に自生しているのは、ミチノクフクジュソウの単独品種です。自生地は山裾に沿って約1.5kmに広がり、3月上旬から4月上旬までの約1カ月間花が楽しめます。節分草と同様に絶滅危惧種に指定されており、地元自治会を中心に大切に保護されています。3月29日(土)・30日(日)には、「ためしげ福寿草まつり」が開催されます。



開花状況を毎日ブログでお知らせしています。



案内人 **伊ノ木健治**さん
(ためしげ福寿草まつり実行委員会広報部)

為重の福寿草の見どころは、群生する数が多いことです。各地の福寿草を見て来られた花の愛好家の方が「この福寿草はすごい」と感動されるほどです。また、大きな花をつけているのが特徴で、直径が7センチを超えるものもあります。福寿草は山の斜面などに多く見られますが、間近で見られるのは全国的にも少ないようです。東城インターチェンジから近く、歩道の整備もしているので好評なんです。



●問い合わせ
久代自治振興センター
☎08477-2-0148
<http://www.tameshige-jichi.com/>



しょうばら 花めぐり

各地域のおすすめの「花」をご紹介します

平江帯 ヒゴタイ higotai

ヒゴタイは、絶滅危惧種に指定されている植物です。日当たりの良い草地に生育するキク科の多年草で、枝先に鮮やかな濃い青紫色の小花を球状につけます。地域では古くからこの花を「ぼにばな」と呼んで親しみ、比和町三河内地区の住民グループ「ヒゴタイの会」の皆さんが大切に守り育てています。例年の見頃は8月下旬から9月上旬です。



毎年お盆過ぎにはイベントも開催しています。



案内人 **藤原群三**さん (ヒゴタイの会 会長)

ヒゴタイは大人の男性の身長くらいに成長し、花は大きなぼんぼりになり瑠璃色で宝石のようです。まさに地域の宝として保存活動を続けています。この花は絶滅危惧種だけあってもともと自生数が少なく、育てるのが難しい花です。何とか増やせないかと保存会で取り組んできましたが、10年かけやっと200本余りに増やすことができました。現在は、比和小学校の児童も一緒になってヒゴタイの保護に取り組んでくれています。



●問い合わせ
庄原市観光協会
☎0824-75-0173

節分草 セツブンソウ setsubunso

節分草は、旧暦の節分の頃に咲くということから「節分草」と名づけられました。総領町には、節分草の自生地が40カ所以上、延べ1.5kmに広がっており、日本でも有数の規模を誇ります。市の天然記念物に指定されており、そのうち7カ所が2月中旬から3月中旬まで一般公開されています。環境省の準絶滅危惧種に指定されている貴重な花で、地元の保存会によって大切に保護されています。



●問い合わせ
節分草インフォメーション(期間中)
☎0824-88-3050
総領支所 ☎88-3065

案内人 **中谷昭夫**さん
(NPO法人節分草保存会 理事長)

今年は昨年より1週間早く咲き始めました。咲く期間はだいたい2週間くらいですが、公開している7カ所は傾斜の角度や日の当たり方が異なるので、同時に咲くことはありません。咲くタイミングがずれることで、その分長く節分草を楽しめます。今年から車イスの方優先の箇所を2カ所設けました。3月9日には恒例の「節分草祭」を開催しますので、ぜひ足を運んでください。

道の駅リストアステーションに総合案内所を設けています。



満作

マンサク
mansaku

マンサクは山地に自生する落葉低木で、この地方では「谷いそぎ」とも言われます。2月中旬から3月初めに咲く、雪深い口和町で最も早く春を告げる花です。花が枝いっぱい咲いたため、穀物が豊かに実ることになったとえられ「満作」という名がついたと言われています。主に黄色で、1.5〜2センチほどの細長い帯状の花がつくのが特徴です。旧口和町の「町の花」にも選定されていました。



赤や褐色のマンサクもきれいですよ。



まつしま ひとし
案内人 **松島 均**さん
(湯木釜峰自治会前会長)

平成12年に湯木ふれあいプラザ(旧口和公民館湯木分館)の完成を記念して、地域住民協力のもとマンサクの木を50本植樹しています。10年以上経ちますが、毎年きれいな花を咲かせてくれています。町内には他にもマンサクが見られるスポットが多くありますので、ぜひ探してみてください。マンサクが終わるとコブシ、それが終わるとヤマツツジ、そしてヤマザクラと順番に咲いていくので、これらも見どころの一つですよ。



●問い合わせ
口和支所産業建設室
☎0824-87-2113

枝垂桜

シダレザクラ
shidarezakura

西城川沿い、国道183号線の西城トンネル手前を左折し、橋を渡るとすぐのところにある蓮照寺。その歴史は古く、永正12(1515)年の開基と伝わっています。本堂の横に優美な姿で佇んでいるのが樹齢約150年のエドヒガン系の枝垂れ桜です。高さはおよそ10メートルあり、一斉に咲きそろうた花は見応えがあります。ライトアップもあり、夜桜も楽しめます。例年の見頃は4月10日前後です。



●問い合わせ
西城町観光協会(庄原市観光協会西城支部)
☎0824-82-2727
<http://www.hiba-gon.com/>

なかやま ゆたか
案内人 **中山 裕**さん(蓮照寺住職)

お寺の境内の中にある桜として、ご近所の方に親しまれる程度でしたが、ここ最近になり観光バスなどで市外からお見えになる観光客が増えました。そういったことから、お寺の青年部や観光協会の協力をいただく中で、ゆっくり桜を楽しんでいただけるよう、ベンチを設けたり、ライトアップしたりしています。今後は春だけでなく、イルミネーションで飾るなどして、一年を通じて少しでも長く桜を楽しんでもらえるものにしていきたいと思っています。

観光施設ではありませんが、地域振興の一助になれば幸いです。



水仙

スイセン
suisen

スイセンはヒガンバナ科の多年草で、人気のある花です。国営備北丘陵公園では、「スイセンファンタジー」を毎年春に開催しています。今年は3月15日(土)から4月13日(日)までの予定で開催されます。500品種、75万本のスイセンが丘一面に広がる光景は圧巻です。期間中の土日には、ライトアップや花火、コンサートや切り花体験などのイベントも開催されます。



●問い合わせ
備北公園管理センター
☎0824-72-7000
<http://www.bihoku-park.go.jp/>

はまやすみずほ
案内人 **濱保瑞穂**さん
(備北公園管理センター企画課企画係)

スイセンファンタジーの見どころは、色鮮やかなじゅうたんのように咲き広がるスイセンと、一緒に咲く桃の花とのコントラストです。また、品種によって植栽している本数が違い、咲くタイミングも違うので、期間の最初と終わりでは違った表情を楽しむことができます。スイセンは下(谷側)に向かって顔を向ける性質があるので、丘の下から見上げるようにするのがポイントですよ。

西日本一の品種数を誇るスイセンガーデンをぜひご覧ください。



林檎

リンゴ
ringo

リンゴと言えば、おいしい果実を思い浮かべますが、実だけでなく花も楽しめます。つぼみのときはピンクで、花が開くと白くなるものがほとんどですが、品種によっては赤や紫の花が咲きます。高野で栽培されているリンゴの品種で最も多いのが「ふじ」という品種で、全体の約8割。5月上旬になると、りんご畑が白い花で覆われ、甘い香りが漂ってきます。



リンゴは食べるだけでなく、見ても楽しめますよ。



たなべしんじ
案内人 **田辺真治**さん
(高野町果樹園芸組合 組合長)

元気のいい花が咲かないと、良いリンゴに育ちません。ですので、花の咲き具合というのは気になります。花が咲く頃に霜がおりることがありますが、0度を下回ると花がダメージを受けてしまうので、スプリンクラーで水をまき、花を凍らせることで温度を保たせ、霜から花を守ります。天気の良い朝方に見られるこの光景も、一見の価値がありますよ。



●問い合わせ
高野支所産業建設室
☎0824-86-2113